

令和5年度学校評価

1 はじめに

学校教育法 42 条に「教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない」とある。これが学校評価をおこなう法的根拠である。また、同 43 条では「教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする」とあり、学校評価の情報提供が義務づけられている。

本校では、校長、教頭、部主事、各校務部長からなる学校評価委員会を中心に学校評価をおこなっており、その結果をホームページに掲載することで公表している。さらに学校関係者評価委員会を開催し、評議員やPTA代表などからも広く意見を求めたうえで評価結果を取りまとめ、次年度の学校運営の改善に役立てている。

2 令和5年度学校評価の取組

(1) 令和5年度学校評価における課題と重点目標及び方策

対象者	課題	重点目標	方策
児童生徒	学校生活の充実	安全安心に充実した学校生活が送れるよう、一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動の推進を図る。	「実態表」を活用するとともに、教員間の連携を密にすることにより、個に応じた支援の検討および実践に努める。また、日常の関わりにおける観察より得られる児童生徒の状況や変容を把握し、日々の実践に活かせるよう努める。
保護者	情報の提供と保護者の交流	学校の様々な情報を発信することで、理解や参画を促す。保護者同士の交流をさらに図る。	各部、各校務部と連携し、保護者の要望に応じた情報提供や理解啓発への取組を図るとともに、保護者同士の交流が活発になるよう機会や内容の充実を図る。
医療機関	情報交換と連携	様々な機会を捉え、適切な方法で情報交換を行い、連携の充実を図る。	児童生徒の主治医が属する医療機関との連絡や情報交換が円滑に行えるよう努め、医教連携の強化を図る。医療センターにおいては、CNT会等により各病棟との情報交換を適切に行い、授業等教育活動の再構築を図る。
教職員	授業改善と教職員の専門性向上	児童生徒の病状や特性の理解を深めることで、専門的な知識・技能を高め、指導内容や方法、指導体制の工夫と改善に努める。	児童生徒の特性に合った指導や支援の専門性を高めるための教員研修を充実させるとともに、ICTを活用した効果的な学習の推進を図る。さらに、部会やグループ会等を有効活用して教員間の情報交換を密にすることで、一丸となって指導に取り組む。

(2) 学校評価の方法及び年間実施計画

① 学校評価の方法

上記の「令和5年度学校評価における課題と重点目標及び方策」をもとに、各部の経営方針及び各校務部の経営計画を決定した。職員会議での周知を経て、教職員共通理解のもと、今年度の教育活動や学校運営に取り組んだ。それらの評価については、12月初めに生徒（中学部・高等部）、保護者、教職員、1月に四国こどもとおとなの医療センター職員を対象とするアンケートを実施し、その結果を集計、分析したものをもとに自己評価としてまとめた。2月20日、学校関係者評価委員会において自己評価を報告し、学校評議員及びPTA代表者から意見を聴取したうえで評価結果を取りまとめる。そしてこれらを参考に、今後の教育活動や学校運営の改善に向けて、令和6年度の重点目標及び方策を策定していく。

② 学校評価の年間スケジュール

月	評価	内 容
4月	P ↓ D ↓ C ↓ A サイ ク ル で 実 施	学校評価委員会設置【校長・教頭・部主事・各校務部長】 運営委員会 職員会議で今年度の「課題と重点目標及び方策」について説明
5月		令和5年度校務部経営計画、評価項目等の検討
6月		第1回学校評価委員会 令和5年度学校評価計画及び実施に関する検討 職員会議で令和5年度学校評価計画及び実施に関する周知 第1回「学校生活に関する生徒アンケート（生徒）」実施、集計、分析等 （1月に同じアンケートを実施）
7月		第1回学校評議員会 各部経営計画、校務部経営計画、評価項目等説明、授業見学等
10月		第2回学校評価委員会 「学校評価アンケート（生徒・保護者・医療センター・教職員対象）」項目の検討 企画運営委員会及び職員会で学校評価アンケート実施について説明
12月		「学校評価アンケート（生徒・保護者・教職員対象）」実施、集計
1月		「学校評価アンケート（医療センター対象）」実施、集計 各学部・校務部で「学校評価アンケート」集計結果の分析等 第3回学校評価委員会 各学部・校務部の分析結果の検討、自己評価等 第2回「学校生活に関する生徒アンケート（生徒）」実施、集計、分析等
2月		学校関係者評価委員会【学校評議員、PTA会長・副会長】 各学部・校務部の分析、自己評価の報告・説明
3月		職員会議で学校評価結果報告 学校評価の結果公表（学校ホームページ） 学校評価結果による次年度の「課題と重点目標及び方策」の検討

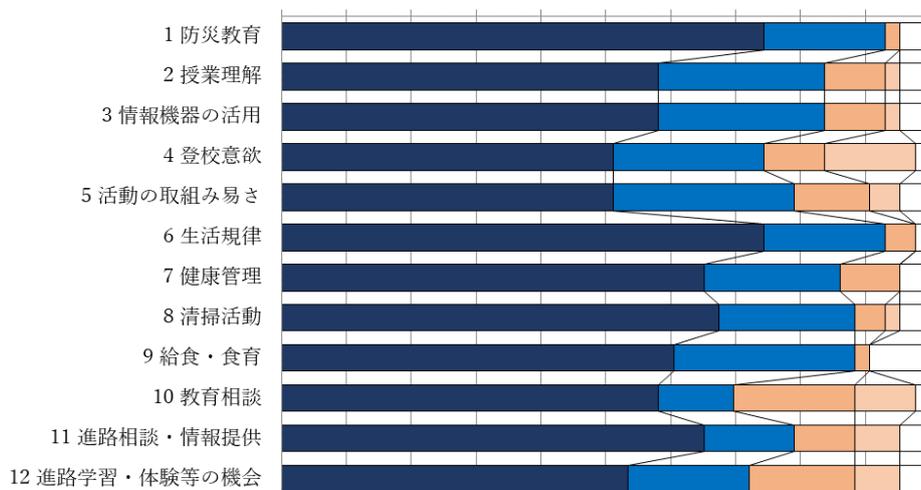
3 学校評価質問事項及び評価項目と集計結果

<生徒>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは、授業や避難訓練、防災コーナーを通して、防災の大切さが分かりましたか。	防災教育
2	授業は、分かりやすく工夫されていますか。	授業理解
3	あなたは、パソコンやテレビ、タブレット型コンピュータ、スイッチなどの機器を使った授業を受けて、分かりやすかったですか。	情報機器の活用
4	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	登校意欲
5	サークル活動、委員会活動、学部集会は、みなさんの意見を取り入れて、参加しやすいですか。	活動の取組み易さ
6	先生は、あなたの生活態度や社会ルールを守ることにについて教えてくれていますか。	生活規律
7	あなたは、手洗い、歯みがきなどをして健康に気を付けていますか。	健康管理
8	あなたは、掃除の時間に、自分の清掃区域をきれいにしようと努めていますか。	清掃活動
9	あなたは、食べることが自分の体を作ったり、健康に役立つことを知っていますか。	給食・食育
10	あなたは、生活や健康、勉強、進路等について相談できる先生がいますか。	教育相談
11	学校は、進路選択に関する相談や情報の提供をしていますか。	進路相談・情報提供
12	学校は、進路選択に関する学習や希望する進路先の見学や体験の機会を設定していますか。	進路学習・体験等の機会

生徒（配付49 回収43 回収率87.8%）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合（学部別）
（%）

質問	中	高
1	94.4	92.0
2	83.3	84.0
3	72.2	92.0
4	83.3	68.0
5	72.2	84.0
6	88.9	96.0
7	88.9	84.0
8	83.3	92.0
9	83.3	92.0
10	66.7	72.0
11	77.8	80.0
12	66.7	76.0

■そう思う ■ややそう思う ■あまりそう思わない ■そう思わない □無記入

全体では「そう思う」「ややそう思う」が82.6%である。

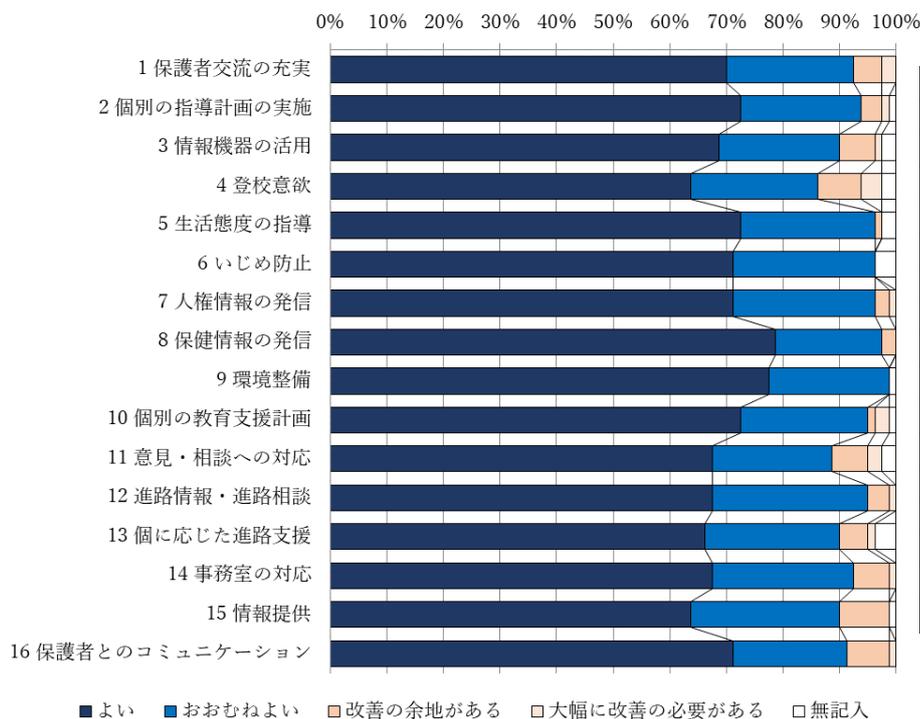
例年低い傾向にある「4 登校意欲」については、「そう思う」「ややそう思う」が74.4%と、昨年度(68.8%)より改善が見られたものの、高等部は68.0%と依然低い傾向にある。また、「10 教育相談」については、69.8%(中学部 66.7%、高等部 72.0%)と低い結果となった。さらに、進路に関する項目については、中学部生徒の数値が低く、自分の進路や将来を十分に思い描くことができていない様子が伺える。学校が行きたいと思える場所であること、不安や悩み、進路について、身近に相談できる先生がいると思えることは大切なことである。今後も教職員は、児童生徒一人一人の心理状態や特性を理解し、保護者や必要に応じて主治医やスクールカウンセラー等と連携しながら、個に応じた対応を丁寧に行っていく。

一方、昨年度と比較して評価が高くなった項目に、「6 生活規律」(93.0%)がある(昨年度 85.4%)。生徒アンケートには「私のことを考えて言ってくれている」というコメントもあった。高等部卒業後は就職し社会に出る生徒もいる。引き続き生活態度や社会ルールを学習できる機会を授業や集会等で実施するとともに、日々の学校生活の中で生徒の理解に応じた個別の指導を行っていく。

<保護者>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	学校は、保護者間の交流が深まるように、学校行事や保護者交流会等の内容を工夫して計画・実施していますか。	保護者交流の充実
2	個別の指導計画について、十分な説明がされていますか。	個別の指導計画の実施
3	学校は、児童・生徒の実態に合わせて、授業や行事でパソコンやテレビ、タブレット型コンピュータ、スイッチなどを活用していましたか。	情報機器の活用
4	お子さんは、学校に行くのを楽しみにしていますか。	登校意欲
5	教職員は、お子さんの生活態度や社会ルールを守ることにについて指導していますか。	生活態度の指導
6	学校は、「いじめ防止基本方針」に基づいて、お子さんが安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
7	学校は、人権や人権問題についての情報を適切に提供していますか。	人権情報の発信
8	学校は、おたより等を通して、保健や食育に関する情報を分かりやすく伝えていますか。	保健情報の発信
9	学校内の清掃は、行き届いていますか。	環境整備
10	学校は、お子さんの「個別の教育支援計画」を本人・保護者の願いに基づいて作成し、適切な支援を行っていますか。	個別の教育支援計画
11	学校は、児童生徒について相談できる十分な環境を整えていますか。	意見・相談への対応
12	学校は、「進路だより」や掲示板、キャリア支援室を活用して、進路に関する情報の提供や相談が適切に行われていますか。	進路情報・進路相談
13	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
14	事務室窓口や電話の対応、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
15	学校は、保護者が求めている情報を提供できていますか。	情報提供
16	学校は、保護者のみなさんとコミュニケーションをとることができていますか。	保護者とのコミュニケーション

保護者(配付106 回収80 回収率75.5%)



「よい」「おおむねよい」と回答した保護者の割合(学部等別) (%)

質問	小	中	高	院内
1	100.0	83.3	93.3	92.3
2	94.7	88.9	93.3	100.0
3	89.5	83.3	90.0	100.0
4	94.7	88.9	76.7	92.3
5	94.7	100.0	100.0	84.6
6	100.0	100.0	96.7	84.6
7	94.7	100.0	96.7	92.3
8	100.0	94.4	96.7	100.0
9	100.0	100.0	100.0	92.3
10	94.7	94.4	96.7	92.3
11	94.7	88.9	90.0	76.9
12	100.0	88.9	93.3	100.0
13	94.7	88.9	83.3	100.0
14	94.7	88.9	93.3	92.3
15	94.7	88.9	90.0	84.6
16	94.7	94.4	90.0	84.6

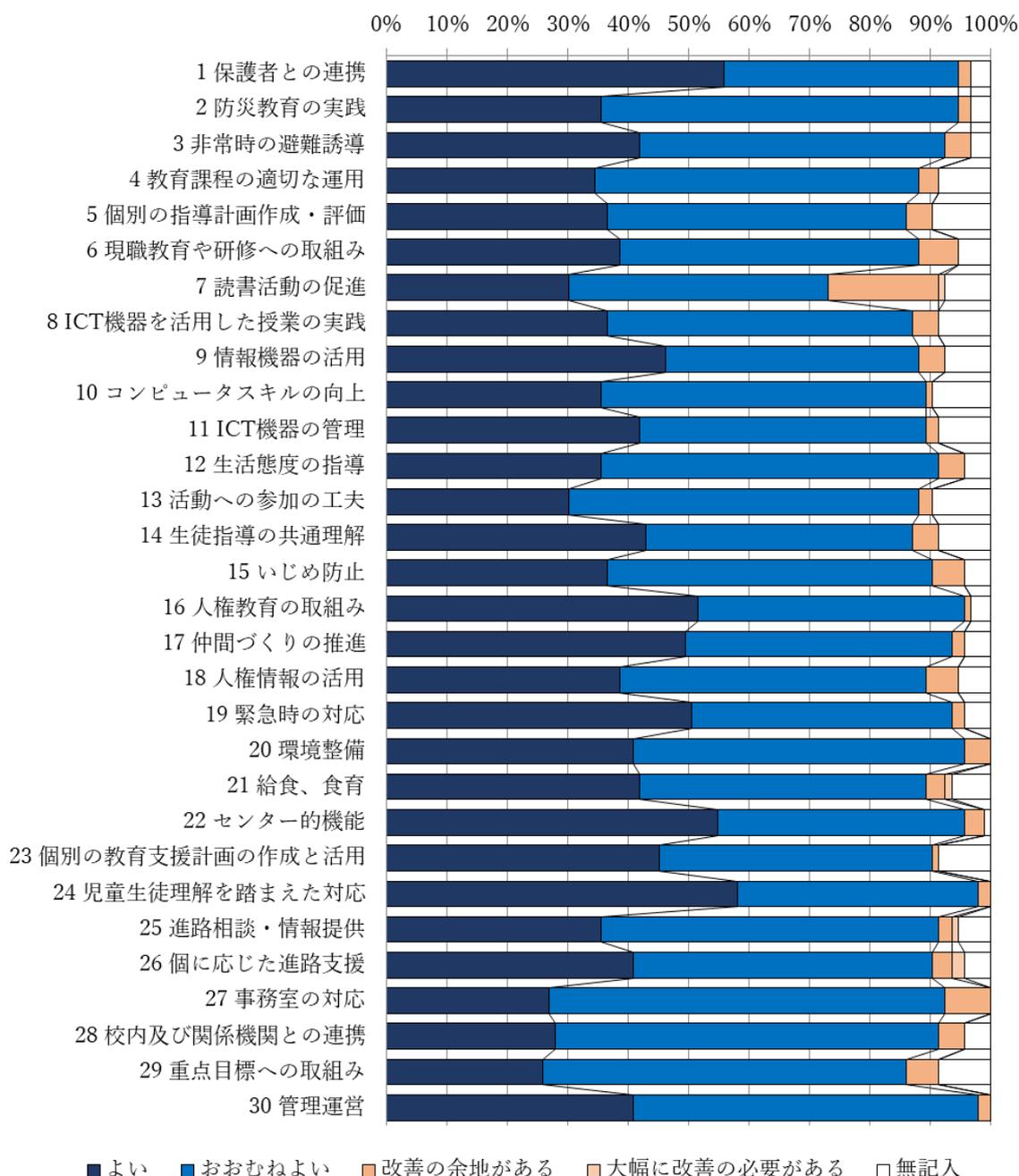
全体としては「よい」「おおむねよい」が9割以上(平均値93.2%)を占めている。特に「9 環境整備」は98.8%と評価が高い。わずかな施設の不備でも事故やけがにつながることもあるため、日頃から安全な学校環境の整備に注意を払っていること、創立50周年行事に向けて児童生徒や職員全員で清掃活動に取り組んだことが結果につながっている。

一方、「4 登校意欲」は昨年度の85.6%より若干の増加はみられるものの86.3%と低く、高等部にその傾向が強い(76.7%)。また、「11 意見・相談への対応」については88.8%と、より児童生徒が相談しやすい環境が求められている。登校への支援や相談しやすい環境を求める評価は生徒アンケートと同様である。教職員は保護者と連携し、児童生徒一人一人の課題に応じた丁寧な指導や支援を行っていく必要がある。

<教職員>

	質 問 事 項	評 価 項 目
1	あなたは保護者に対し、学校行事や学習状況について様子を伝えるなどして連携に努めていますか。または、働き掛けに協力ができていますか。	保護者との連携
2	あなたは、児童生徒の実態に応じた防災教育に取り組んでいますか。または取組みに協力ができていますか。	防災教育の実践
3	あなたは非常時に、児童生徒を安全に避難誘導することができますか。	非常時の避難誘導
4	個別の指導計画や学習指導計画を活用し、PDCA(計画・実施・評価・改善)を行って、授業に反映することができましたか。	教育課程の適切な運用
5	指導要録や個別の指導計画について、手引きや用字用語集を活用し、作成することができましたか。	個別の指導計画作成・評価
6	専門性や資質向上のために現職教育や研修に積極的に取り組んでいますか。	現職教育や研修への取組み
7	児童生徒の読書意欲を高めるための働き掛けや工夫をしていますか。	読書活動の促進
8	各教科等で、目標を明確にした指導の中でICT機器を適切に活用できていますか。	ICT機器を活用した授業の実践
9	あなたは、学校でパソコンやタブレット型コンピュータ、テレビ、プロジェクターなどの機器を、必要に応じて使うことができますか。	情報機器の活用
10	情報研修会や情報メディア部よりは、教職員のコンピュータスキル向上に役立っていますか。	コンピュータスキルの向上
11	情報メディア部は、ICT機器の保守管理や、機器の取り扱いについてサポートすることができていましたか。	ICT機器の管理
12	あなたは、児童生徒の生活態度や社会ルールについて、卒業後を見据えた指導をしていますか。	生活態度の指導
13	あなたは、サークル活動、委員会活動、学部集会上に児童生徒の意見を取り入れて、参加しやすいように工夫していますか。	活動への参加の工夫
14	各部会等で、生徒指導に関する情報交換や具体的な指導方法が協議されていますか。	生徒指導の共通理解
15	あなたは、「いじめ防止基本方針」に基づいて、児童生徒が安心して学校生活を送れるように取り組んでいますか。	いじめ防止
16	あなたは、児童生徒の自尊感情や人権感覚が育つように意識して指導していますか。	人権教育の取組み
17	あなたは、児童生徒が他の児童生徒、教員との関わりを通じて成長できるように働き掛けをしていますか。	仲間づくりの推進
18	あなたは、人権や人権問題に関する情報を児童生徒の指導に役立てていますか。	人権情報の活用
19	あなたは、児童生徒の病状について周りの人と情報を共有し、緊急時に適切な対応ができるようにしていますか。	緊急時の対応
20	あなたは、校舎内外の清掃活動や環境整備に努めていますか。	環境整備
21	あなたは、給食や食育に関して理解に努め対応していますか。	給食、食育
22	あなたは、学校が学校見学や連携訪問などを通して、小・中学校等の教員への相談支援・情報提供などのセンター的機能を果たしていることを知っていますか。	センター的機能
23	あなたは、活用マニュアルや記入例を基に、児童生徒の実態や本人・保護者の願いに応じた「個別の教育支援計画」を作成し、適切に支援をしていますか。	個別の教育支援計画の作成と活用
24	あなたは、児童生徒の病気や障害特性の理解に努め、対応していますか。	児童生徒理解を踏まえた対応
25	学校は、進路に関する情報の提供や相談が適切に行えていますか。	進路相談・情報提供
26	学校は、病院や地域の関係機関と連携をとって、個に応じた進路支援を行っていますか。	個に応じた進路支援
27	事務室の窓口や電話の対応、取り次ぎは適切にできていますか。	事務室の対応
28	あなたは、教職員や医療及び福祉等の関係機関と必要に応じて適切に情報交換を行い、連携した指導ができていますか。	校内及び関係機関との連携
29	あなたは、学校評価の重点目標を達成するために、「実態表」や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取組みができていますか。	重点目標への取組み
30	あなたは、教室環境等の安全面や事務処理など、管理運営面での適切な対処ができていますか。	管理運営

教職員(配付93 回収93 回収率100.0%)



「よい」「おおむねよい」と回答した項目の平均値は90.6%(昨年度87.7%)である。特に、「24 児童生徒理解を踏まえた対応」は97.8%と、病気や障害特性の理解に努め対応していると評価した教職員は多い。近年は児童生徒の実態が多様化していることから、個に応じた指導・支援の手立てを判断し実践できる病弱教育の専門性がより求められている。それら研修に係る質問内容「6 現職教育や研修への取り組み」については88.2%と、昨年度(81.3%)より上昇しているが、校内研修やオンライン研修受講等を推進し、さらなる専門性の向上に努めていく。また、学級担任だけでなくグループや学部など関係職員で情報を共有してチームで改善策を検討し、解決に向けた取組体制を強化する。

「2 防災教育の実践」「19 緊急時の対応」「20 環境整備」「30 管理運営」等、安全のための環境整備や事故や災害時の危機管理に関する項目について評価が高い。災害や事故発生時の訓練や点検を行い、その都度改善策を話し合うことで、職員間の危機管理意識の高まりが保たれている。

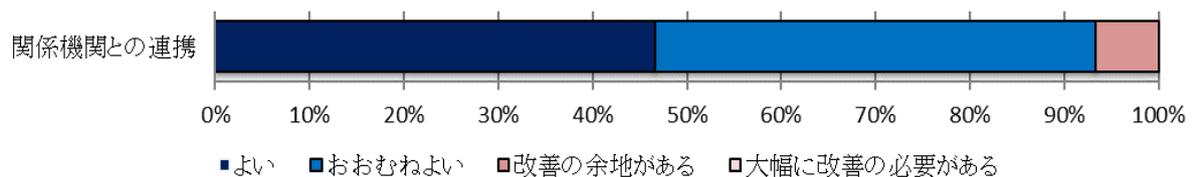
なお、無記入の回答がみられるのは、事務職員や学校看護師に対しても同じ内容のアンケートを実施しており、関わりのない項目についての回答を避けるため、無記入を選択している。

<医療機関（四国こどもとおとなの医療センター）>

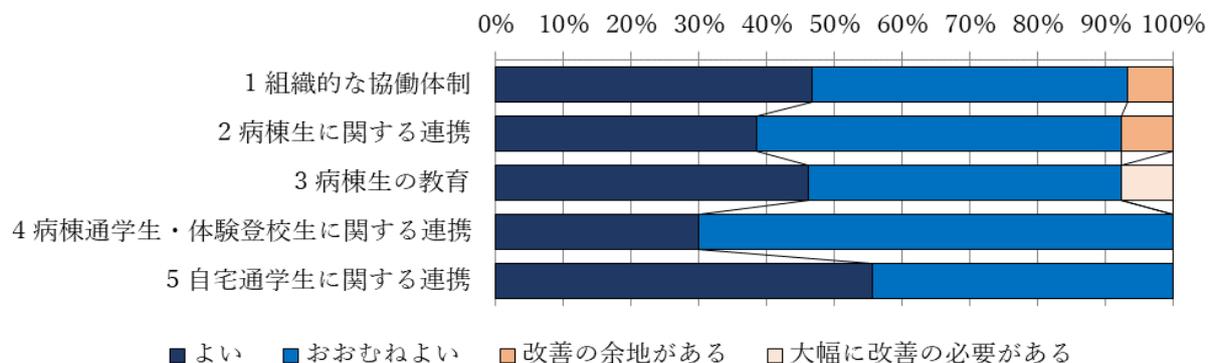
質問事項	評価項目
学校は、児童生徒の教育や療育について、病院と適切に情報交換を行い、連携を図ることができていますか。	情報交換と連携

	質問事項	評価項目
1	病院と学校の組織的な連絡・協議の体制は、現状どおりでよいですか。 (定期的に行事予定やたより等を配付する、必要に応じてDNT会を開催する等)	組織的な協働体制
2	学校は、 <u>病棟生</u> の教育や療育について、連携を図ることができていますか。 (日々の連絡、CNT会等)	病棟生に関する連携
3	<u>病棟生</u> への授業形態は、現状(感染状況に応じた対面授業)でよいですか。	病棟生の教育
4	学校は、 <u>病棟からの通学生</u> や <u>体験登校生</u> について、連携を図ることができていますか。 (日々の連絡、医教連携簿、カンファレンス等)	病棟通学生・体験登校生に関する連携
5	学校は、 <u>自宅からの通学生</u> について、必要に応じて貴院の主治医等と連携を図りながら教育を行っていますか。	自宅通学生に関する連携

四国こどもとおとなの医療センター(配付16 回収16 回収率100.0%)



【連携等の詳細】



注) 職務に関係ない質問内容やケースがなく無記がなかった回答者数は除いている。

医療センターとの連携について「よい」「おおむねよい」との回答は、93.3%と高い評価をいただいている。新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、病棟生の対面授業が行えるようになったことから、「2 病棟生に関する連携」「3 病棟生の教育」はいずれも93.3%となった。「病棟生に個別にしっかり対応くださり、子どもたちの笑顔が増えているのが嬉しい」とのコメントもいただいている。「4 病棟通学生・体験登校生に関する連携」や「5 自宅通学生に関する連携(主治医等との連携)」についても、関係のすべての方から高評価をいただいている。引き続き、CNT会や日々の連絡等により情報交換を行い、医教連携の強化を図る。

また、感染症対策として縮小しているDNT会の再開を望む意見もいただいている。学校と医療センターの組織的な協働体制の強化のため、適切な時期の開催や内容を今後検討していく。

4 学校評議員及び学校関係者評価委員会

令和6年2月20日に学校評議員及び学校関係者（PTA会長及び副会長を含む学校関係者）による評価委員会を実施し、以下のような意見を得た。これらの意見を踏まえ、次年度の教育活動の改善に生かす。

- ・新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、医療センターでの対面授業も再開された。授業や学校行事等さまざまな教育活動が活発に行われている様子が伺え、喜ばしい。
- ・医療センターのアンケートから、DNT会(Doctors, Nurses and Teachers' meeting)の再開を望む声があった。感染症対策によりここ数年は書面での情報共有となっていたが、顔を合わせての協議が望ましい。来年度より再開する方向で、開催時期や回数、メンバー等については検討を進めていく。

p

- ・生徒のアンケート結果から、より相談しやすい先生を求めている様子が見られた。子どもたちから本心を聴き出すには非常に期間がかかるものである。学校という限られた時間の中では、さらに難しさが増すだろう。さまざまな事情で登校することが困難なお子さんもいるかと思う。そのようなときこそ、相談できる先生がいることは心強いものである。我が子は高等部になると、「これは担任の先生に言うことではない」と、子どもながらに判断していたようだ。担任の先生でなくても、他に話を聴いてくれる先生がいて、不安を軽減できていたことは有難かった。大事にしたいのは、本当に困ったときに「助けて」と自ら発信できる力を育てることだと思っている。
- ・先生方のご協力があって、子どもはいろいろなことを経験し成長できている。先生の期待に応えたくて、ときに自分の容量を超えてしまうときもあるが、保護者として、先生方に求めるだけでなく、先生方と情報を共有しながら親としてできることを一緒にしていかなければならないと思っている。
- ・病気があっても治療しながら学習できる、教育が途切れることなく行うことができる、そんな普通寺支援学校の存在は大きい。

5 各校務部及び各学部の重点目標、評価結果及び次年度への課題と改善策

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（*）
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携及び保護者のPTA行事への参加や保護者同士の交流の促進 ・防災教育の実施と災害時の避難体制の確立と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりにPTA総会を行い、PTA役員の紹介や教育方針や経営などについての周知をすることができた。6月には、「障がいのある子どもへの家庭・地域における支援の在り方について」、10月には「障害年金について」の講演を開催した。保護者交流では、はなみずきの会から卒業生保護者に参加してもらい、大変好評であった。今年度もPTA研修視察は現地集合現地解散とし、日時をずらして実施することで5か所の事業所を見学することができた。3学期には書面での保護者交流を行う。 ・一昨年度より学校ホームページにPTA関連事項を掲載しており、今年度もPTA行事の報告を随時更新した。 ・5月、10月に防災避難訓練（地震、火災、水害を想定）、1月に緊急地震速報受信時のショート訓練を実施した。繰り返し訓練を行うことが重要だと感じた。また、防災職員研修では、新転任者と希望者を対象に防災設備、備蓄品の位置の確認や、消火栓や消火器の使用訓練を実施した。 ・9月初めの防災週間に災害用伝言ダイヤル体験を実施した。学校からのメッセージを録音し、保護者、職員がそのメッセージを聞いた。 ・9月、1月に「防災コーナー」を設置し、防災クイズ、ハザードマップなどを掲示し、防災意識の啓発に努めた。 ・1月に職員用防災備蓄品を全職員に還元し、非常食ローリングストックを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へのPTA活動参加の啓発 * 学校HPにPTA行事について掲載 ・保護者同士の交流促進 * 保護者交流会、研修会等の工夫 * 保護者交流の場の提供 * はなみずきの会との連携 ・病棟との連携 * 病棟と連絡を取り合って避難行動について確認する。分散避難も見据える。 ・防災備蓄品のローリングストック * 年度ごとの還元と購入を平均的に行う。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の適切な運用による児童生徒の実態に合った授業の工夫 ・諸表簿等の正確な記載と合理的な処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程振り返りアンケートの実施や学習指導年間計画の見直しにより、教員に振り返りの機会を設け、PDCAサイクルを意識できるよう働き掛けた。 ・授業の工夫については生徒から一定の評価を得ているが、より一層一人一人のニーズに応えられるような支援の工夫を図っていききたい。 ・諸表簿の正確な記載と統一を図っていくために、手引きや本校独自の用字用語集を活用するよう、随時教員への呼び掛けを十分に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に合った授業を実施し、観点別学習評価を行う。 * 各学部各グループで教育課程のPDCAサイクルの実施。 * 振り返りアンケートの内容を検討 * 参考となる教材の収集と整備（研究部と連携） ・手引きや本校独自の用字用語集の活用により、より一層正確な記載を心掛ける。 * 部会、グループ会等で活用について呼び掛ける。

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器の活用とスキル獲得に向けた取り組みや活用 ・ 読書活動の推進 ・ 児童生徒の心理的な安定や人間関係の形成を重視した指導・支援方法について、研修会の実施と紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が ICT の活用法を知り、授業を通じて ICT 活用のスキルの向上を図ることができた。 ・ 児童生徒が中心となって図書室のお薦めの本の紹介を行った。今年度はボランティア団体「すまいる人形劇」による人形劇がコロナ禍以降初めて行われた。児童生徒職員が一体感をもって楽しく参加することができた。 ・ 今年度は授業公開や研修会の集合開催が活発になり、積極的に参加することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 活用法について情報をまとめた事例集を作成し、活用できるようにする。 ・ 図書室の活用への意識の向上 ＊新しい取り組みや、今の取り組みの改善・工夫点の検討 ・ 学年会、グループ会等を通して児童生徒の共通理解を図る。 ・ 校内・県内外の研修会等の職員への周知、自己研修の機会の提供
情報メディア部	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT(情報通信技術)を活用した授業や、iPadでのAT(支援技術)を活用できる教員を育成する。 ・ iPadとWindowsタブレット間の、サーバーを経由したデータの転送・保存など、Wi-Fi環境を有効的に活用する方法を検討・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度に入り、職員用一人一台 iPad を全ての教員に対して配布し、よく使用するアプリケーションソフトをインストールするなどの整備を行ってきた。iPad用サーバーも、児童生徒用の学習用 iPad サーバーだけでなく、教職員 iPad 専用サーバーを設定・運用した。その後、各学部、グループより数名ずつ研修会に参加し、データの転送やダウンロードを簡単にできるソフトの使用方法について研修を行った。2学期から職員会議の資料をサーバーに保存して、職員各自で必要な資料を、サーバーからダウンロードして、iPad で活用することが、ほぼ全ての職員で可能になった。普段の授業でも、iPad にプリント教材をダウンロードして、入力用のペンを使用して書き込んだり、画像を貼り付けてノートを完成させたりするなど、今までより一歩進んだ授業でのタブレット活用方法を取り入れる教員も出てき始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まだまだ情報研修が充分実施できていないと感じる。教職員も業務が多忙化しており、なかなか研修に参加することが難しいことも考えられる。 ＊Form を使用したアンケートの調査・集計など、他校の取り組みを参考にしながら、実用性の高い研修内容を考えたい。

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情や自己存在感を高められるような、充実した特別活動やサークル活動を推進する。 ・よりよい人間関係を築くために、ルールやマナーを教え、社会生活や集団への適応性を培う。 ・問題行動等の未然防止や早期解決のための体制づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策が緩和されたため、サークル活動や委員会活動を予定通りに実施することができた。児童生徒会主催の行事も、教師が主導するのではなく、なるべく児童生徒の意見を尊重して計画し、児童生徒が主体的に活動し実施することができた。部集会などでサークル活動の成果を発表する機会を設けることができた。 ・周囲の人との関わり、特に同年代の友達と関わることを苦手とする児童生徒にとって、集団への参加は大きな壁となっている。学部集会など学部全体の行事などの際にはルールやマナーについて指導する機会をもつことができた。児童生徒会によるあいさつ運動を定期的実施した。自ら挨拶してくれる児童生徒が少しずつ増えてきたように感じる。 ・保護者や生徒、教員からの情報をグループや学部内で共有し、担任が必要な場面で児童生徒や保護者の気持ちに寄り添いながら指導し、早急に対応することで大きな問題に発展することはなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情をさらに高めるための支援や活動形態を工夫する。 ＊サークル活動や学習活動の成果を発表する機会を設ける。 ＊児童生徒が自ら考え、企画する活動を行う機会を増やし、サポートする。 ＊あいさつ運動は継続実施の予定。 ・教員、保護者、生徒間での情報共有を継続する。
人権・同和教育部	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育への取り組み ・仲間づくりの推進 ・人権情報の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に人権感覚チェックを実施し、児童生徒に接する態度を振り返ると同時に、児童生徒の人権感覚を育成するための研修の機会とした。全職員からチェック表を提出していただいた。結果としては各学部とも人権感覚について高い評価が出ており、人権意識を高くもって児童生徒に接することができていると思われる。 ・50周年行事などに合わせて、共同で作品づくりをすることによって児童生徒の交流を図ることができ、仲間づくりをしていくことができた。 ・各行事などでグループ間交流をすることにより、児童生徒はお互いを認め合うことや会話の大切さを感じることができた。 ・職員研修では「丸亀少女の家」の職員から実際に行っている矯正教育について講演をしていただいた。在院生徒の人権を尊重して矯正教育をすることにより、改善更生および円滑な社会復帰を図っていることを知ることができた。 ・人権だより「心のとびら」で上映中の映画を紹介することや人権啓発のポスターを校内掲示することにより、人権問題について考える機会をつくることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 ＊人権感覚チェック表の様式変更はできたが、項目の再検討を考えていきたい。 ・新しい視点で人権意識の高揚が期待できる作品制作の提案 ＊交流推進の場面や状況設定の工夫 ・研修内容を早期に決定して講師選定を行う。 ＊人権講演などのイベント情報ポスターをタイムリーに掲示して詳しい情報提供と啓発を行う。

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
保健・環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の生活習慣の改善と保護者、職員への情報発信 ・緊急時対応訓練、医学講座など、研修の内容や方法の工夫 ・校舎内外の環境整備 ・食に関する指導を推進するための情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒保健委員会で歯みがきや換気、手洗い、うがい等と呼び掛ける掲示をしたり、校内放送をしたりしたことで、健康管理に気を付けられていると感じる。児童生徒の病状に必要な情報や医療的ケアについて、必要に応じて保護者や職員と話し合う場を設け、共通理解を図った。 ・緊急時に対応できるよう内容を工夫して訓練やシミュレーションを行った。また、職員間で共通理解をすることができ、それぞれが危機意識をもって対応するようになってきている。児童精神科医療について医学講座を行い、児童生徒の病状について理解し、日頃の対応や支援に結びついている。 ・毎日の清掃では行き届かない窓や外回りの清掃に取り組み、月1回の外回り清掃もほぼ実施できた。毎日の清掃の時間は児童生徒、職員全員で清掃に取り組み、校内が清潔に保っている。 ・給食掲示板で、献立やそれに関する豆知識を毎日お知らせした。食育日より、もぐもぐ掲示板でも食に関する情報を発信したことで、興味をもって見てもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健に関する関心の向上 ＊月目標の呼びかけや保健衛生調べの集計を実施 ・医学講座、緊急時対応訓練等の内容の充実 ＊医学講座、緊急時対応訓練等の実施回数や内容の検討 ・校舎内外の環境維持 ＊日頃の清掃では行き届かない窓や中庭など全職員で清掃を実施 ・食に関する関心の向上 ＊給食時間や献立など、給食を楽しめる工夫 ＊たよりや掲示板の内容の充実
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して進路に関する情報の提供や働き掛けの強化 ・教職員に対して各種進路情報の提供及び他校務部との連携の強化 ・関係機関との連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板やエントランスホールのマガジンラックにを活用して情報提供をするとともに、はなみずきの会とも共有するように努めた。 ・日報を活用して周知することができた。また、個別に相談された教員に対しても、対応することができた。 ・概ね連携できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ＊今年度同様に継続して情報提供に努める。 ＊引き続き情報を提供するとともに、個別に話をする時間を設けたい。 ＊今年度と同様に進路指導主事の他の職員も積極的に関わってもらえるようにしたい。

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
教育支援部	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の相談支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっとルーム」の運営については、今年度も多くの職員の支援を受けながら相談事業を続けられた。学級等での児童生徒への支援が積極的に実施されているため、利用者の減少傾向も続いている。 ・座談会は3回実施することができた。今年度は外部講師を招聘し、保護者の不安感に対して具体的な支援方法などを聞くことができていた。参加者は少ないものの保護者からのニーズはあるので引き続き実施していきたい。 ・スクールカウンセラーとの教育相談を希望する児童生徒・保護者・職員の相談の機会を保障することができた。相談内容についても必要に応じて学級等を連携してフォローすることができていた。 ・校内の児童生徒・保護者・職員からの相談が増加傾向にある。相談しやすい環境づくりができてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほっとルーム運営に関わる職員の安定確保 ＊相談支援事業に対する校内職員への理解と協力依頼 ・保護者のニーズを吸収した座談会テーマの検討 ・SCとの連携の継続 ＊定期的なSCとの情報共有の実施 ・相談に対応できる教員の養成 ＊複数での相談対応を実施し体験の機会を増やす。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会では、各学部から1事例ずつ出してもらい学部を超えての情報交換や意見交換を実施することができた。指導の継続性や年代に合わせた変化への対応などを全員で考えていくことができていた。 ・児童生徒や保護者と支援内容を検討し、共通理解のもとに家庭等と連携した支援内容を考えていくことができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースの抽出における困難事例の把握方法 ＊学部間の連携と協力を考えた会の運営 ・福祉機関との連携方法の検討 ・関係機関との連携（ケース会議）の進め方の検討 ＊他の分掌との連携を強化
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への理解啓発・情報提供や教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外からの相談件数が年々増加してきている。来校しての相談や電話での相談など相談の形態も変化してきている。 ・Webを活用したオンライン教育相談会を実施した。6件の相談依頼があり、教育支援部員全員で質問への対応を行った。参加者からは、なかなか普段相談できない内容が多く、相談時間も延長する場面があった。相談内容に合わせて多面的な視点からの助言を聞くことができて参考になったとの感想をいただくことができた。案内文については、メールでの情報発信に切り替えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Webを活用した教育相談方法の検討 ・相談に対応できる教員の不足 ＊相談に対応できる教員の研修と育成 ＊相談に対応するために実地研修の場を設定する。

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標への取組み ・校内及び関係機関との連携 ・管理運営面 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を学級やグループで話し合い、授業を通して効果的な指導方法（ICTも含め）を探り、日々の学習のなかで生かしてきた。また、今年度はチェックリストを使用し、客観的な視点でも実態把握を行い、目標や指導内容に活用していった。個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に複数の目で評価し、指導の改善にもつなげた。さらに今年度は、大会に参加した教員が部会で内容を報告したり、資料を回覧したりして情報を共有するなど教職員の専門性の向上を図った。 ・グループで情報交換を行い、複数の目で児童への支援や手立て等を検討、改善しながら取り組んできた。また、『みんなで小学部全体を観る』という意識を全員がもてるよう、知り得た情報は、部会やグループ会、朝礼、日々の会話のなかで互いに共有している。小学部全体を意識し、より円滑に部を運営できるようグループ主任会を行い、協力体制のもと進めてきた。また、必要に応じて病院や関係諸機関につないだり連携したりして、児童を取り巻く環境も含めてサポートしてきた。 ・環境整備や安全対策について確認し合うことで、適時に対処して整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上 ＊効果的な指導方法の追求 ＊チェックリストの定着 ＊研修会、連携訪問、教育相談等への参加 ・連携の強化 ＊保護者から情報収集 ＊職員共有 ＊適宜グループ主任会の実施 ＊毎月1回CNT会の実施 ＊必要に応じカンファレンス、ケース会の実施 ・継続実施
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標への取組み ・学部内の情報交換と連携 ・管理運営面への意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の病気や障害特性の理解に努め、個に応じた指導や支援が行えるよう学級、グループ、学年、学部全体で共通理解を図り、日々の指導にあたっている。 ・保護者との情報共有はもちろんのこと、校内だけでなく、医療センターをはじめとする関係機関との連携を密にしながら、課題に対応している。また、関係の小・中学校、特別支援学校とも情報交換を行っている。 ・進路に関する学習でのキャリア学習の捉え方を再確認し、実施した。生徒へどのように伝えていくかについては課題が残る。 ・今年度もグループ会、部会等で常に情報交換を行って、細かな連携を図った。また、定期的にグループ主任会をもち、共通理解を図ったり、グループを超えた協力体制の構築を図ったりするなど中学部全員で生徒の指導に当たっている。 ・火災や地震などの防災や安全管理に積極的に取り組んだ。引き続き感染症予防の意識を常にもち、換気などに取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善 ＊指導内容・指導方法・指導体制の改善 ＊職員と生徒ともに進めるキャリア学習 ・情報共有に基づく連携 ＊生徒・保護者・職員間での情報共有 ＊必要に応じた関係者会の実施 ＊職員間の協力体制 ＊関係小中学校との関わり

分掌等	重点目標	評価結果	次年度への課題（・）と改善策（＊）
<p>高等部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部内及び関係機関との情報交換・連携 ・「実態表」や学校生活での関わりを通して、具体的な改善策を生かした取り組み ・教室環境等の安全面や事務処理など、管理運営面での適切な対処 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の情報交換、連携についてはまだまだ情報共有が不十分なこともあるので、今後も高等部全体の課題として日ごろから情報交換、連携を意識した取り組みが必要である。医療センターや関係機関との連携はおおむねできている。 ・生徒の実態が多様化しているため、生徒との関わりを通して、それぞれの個に応じた指導・支援を模索しながら取り組んでいる。今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ・コロナ感染症が5類に移行したことで、感染予防対策における消毒作業の職員負担が軽減され、それ以外の教室環境整備に取り組むことができるようになってきている。事務処理に関しても、おおむね期日を守って正確にできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や病院、関係機関等から得た情報を、グループだけでなく学部全体で共有できる体制をさらに強化する。 ＊職員が集まって生徒のことだけでなく、いろいろなことを話ができる環境づくりを行う。 ・目標や課題を明確にできるように、生徒との関わりを深めながらアセスメントに取り組む。 ・教室環境や衛生・安全対策は今後も継続する。